

ドイツ語（初級 A） 第 3 回 動詞の現在人称変化（1）

範囲：教科書 S. 8-11（CD トラック 4-10）

《今回の基本例文》

1. Paris liegt in Frankreich. Berlin und München liegen in Deutschland. (CD5-6)
パリはフランスにある。ベルリンやミュンヘンはドイツにある。
[平叙文、規則動詞の現在人称変化、(前置詞 ⇒教科書第 5 課)]
2. Wohnst du in Tokyo? – Nein, ich wohne in Osaka. (CD5-7)
君は東京に住んでいるの？ – いや、僕は大阪に住んでいるよ。
[決定疑問文、(人称代名詞 ⇒教科書第 6 課)]
3. Was machen Sie? – Wir lernen Spanisch. (CD4-3)
あなたがたは何をなさっているのですか？ – 私たちはスペイン語を学習しております。
[疑問詞を含む疑問文、疑問詞]
4. Was bist du? – Ich bin Hausfrau. (CD8-3)
君は何者なの？ – 私は主婦だよ。
[不規則動詞 sein の現在人称変化]
5. Hast du Zeit? – Ja, ich habe Zeit. (CD9-4)
君は(いま)時間があるの？ – うん、あるよ。
[不規則動詞 haben の現在人称変化]
6. Er wird wieder gesund. (CD10-2)
彼はふたたび健康になる(だろう)。
[不規則動詞 werden の現在人称変化]

教科書第 1 課 動詞の現在人称変化（1）

〈動詞の現在人称変化とは？〉（補足）

- ◇ 英語の動詞では、三人称単数現在形に-s がつく。be 動詞の場合、*I am, you are, he is...*と人称に応じてもっと複雑に変化する。これが**人称変化**である。ドイツ語では、すべての動詞に、人称や時制に対する変化形が存在する。ここではまず、現在形の人称変化を覚えよう。
- ◇ ドイツ語文法では、英語でいう「原形」のことを**不定詞**と呼ぶ（まだ人称変化していない「不定」のかたちであるため）。不定詞に対して、主語に応じて変化したかたちを**定動詞**という。もちろん、現在人称変化も定動詞の一つにあたる。

* 周知の通り、英語でも原形に *to* がつく「*to* 不定詞」と呼ばれる。

〈不定詞句について〉 (補足)

- ◇ 動詞の不定詞に目的語や述語内容語や修飾句を組み合わせた表現を不定詞句といい、文の基本的な構成要素となる (Übung 1 の注を参照)。
- ◇ 英語の *to* 不定詞句の場合、動詞 (原形) - 目的語/補語 - 副詞句の順になるが、ドイツ語の不定詞句は副詞句 - 目的語/述語内容語 - 動詞 (不定詞) の順になる (ので、日本語の語順に近くなる) ことに注意。

(例) Deutsch lernen ドイツ語を学ぶ

fleißig Deutsch lernen 勤勉にドイツ語を学ぶ

sehr fleißig Deutsch lernen 極めて勤勉にドイツ語を学ぶ

(to) learn German very diligently 極めて勤勉にドイツ語を学ぶ

- * いまの段階では不定詞句のことはあまり意識せずともよいが、定動詞以外の動詞要素 (⇒教科書第 7 課以降) や副文 (⇒教科書第 8 課) が登場するようになると、「不定詞句から文をつくる」作業に注意しなければならない。
- ** 英語でいう「補語」(5 文型における SVC の C) のことをドイツ語では**述語内容語**や**述語補足語**などと呼んでいる。

教科書 1 基本的な現在人称変化 (S. 8)

- ◇ 規則動詞の現在形の人称変化は、人称代名詞と一緒にすべて覚えること。
 - * ここで登場する人称代名詞はすべて 1 格。1 格については、主語になるかたちと考えておけばよい。詳しくは、格については教科書第 2 課で、人称代名詞全般については教科書第 6 課で扱う。
- ◇ ドイツ語の 2 人称の人称代名詞には**親称**の *du* (単数) や *ihr* (複数) と**敬称**の *Sie* (単数および複数) の 2 種類があり、場合に応じて使い分ける。日本語で敬語を使わないときは *du*、使うときは *Sie* と考えればよいが、現代語の原則では、相手が *du* を使うならこちらも *du*、*Sie* を使うならこちらも *Sie* を使う。

- ◇ 規則動詞の現在人称変化の語尾は、

ich	-e	wir	-en
du	-st	ihr	-t
er	-t	sie	-en

- ◇ 単純な文の組み立て方は、現段階では次のように考えればよい。

平叙文	主語 - 動詞 - 目的語/副詞句 +.
決定疑問文 (はいかいいえで答える疑問文)	動詞 - 主語 - 目的語/副詞句 + ?
補足疑問文 (疑問詞を含む疑問文)	疑問詞 - 動詞 - (主語) + ?

疑問文については、英語の *do* や *does* にあたる助動詞は必要なく、そのまま動詞を変化させて用いる。

- * 語順のことは、のちほど詳しく扱う。 (⇒教科書第 2 課)

** 句点 (英語の *period*) はドイツ語では **Punkt**。

(例) **Wir lernen Deutsch.** 私たちはドイツ語を学んでいる。

Wir kommen aus Frankreich. 私たちはフランス出身である。

* **aus** は前置詞で「～から」。英語の *from*。 (⇒教科書第 5 課)

Lernst du Deutsch? 君はドイツ語を勉強していますか?

Was machen Sie? あなたはなにをしていますか?

Woher kommt ihr? 君たちはどこの出身ですか?

◇ **疑問詞**は、現段階では次のものを覚えること。

疑問詞	英語	意味	格関係
was	<i>what</i>	何が、何を	1 格、4 格
wer	<i>who</i>	誰が	1 格
wo	<i>where</i>	どこで	副詞
woher	<i>from where</i>	どこから	副詞
wohin	<i>to where</i>	どこに	副詞
wann	<i>when</i>	いつ	副詞
warum	<i>why</i>	なぜ	副詞
wie	<i>how</i>	どのように	副詞

* 格についてはやはり教科書第 2 課で詳しく扱うが、ここでは 1 格は主語、4 格は目的語になるかたちと考えておけばよい。

** 英語の場合、通常 *to where* は使わず *where* のままとしたり (*Where did you go?* など)、*from where* の *from* も最後に持つてくる (*Where are you from?* など) のが普通であるが、ドイツ語では **wo, woher, wohin** の三者を明確に区別する。

◇ **否定文**は、(実はのちほど触れる複雑な規則があるが、) 現段階では英語の *not* にあたる **否定辞 nicht** を用いると考えればよい。基本的に否定したい語の前に置く。疑問文と同じく、否定文にも英語の *do* や *does* にあたる助動詞は必要ない。

* **nicht** の詳しい使い方は、教科書 S. 28 や S. 54 のコラムであらためて扱う。

教科書 Übung 1 (S. 8-9、CD トラック 4)

8. **Fräulein** は未婚女性に対する敬称であったが、現在では使わず (英語の *Miss* と同様)、もともとは既婚女性に対する敬称であった **Frau** に統一されているので注意。女性だけ未婚/既婚で敬称を分けるのは差別的と考えられるようになったため。

教科書 Übung 2 (S. 9、CD トラック 5)

6. **in** は前置詞で「～のなかで、～のなかへ」。英語の *in* と考えてよい。 (⇒教科書第 5 課)

8. **gern** は副詞で「好んで」の意味。 **gerne** というかたちもあり。店頭などでは「～をください」のような注文のニュアンスで使われることもある。ここでは **nicht** が **gern** を否定して

いるので、「ビールを飲むのは好きではありません」の意味になる。

教科書² 現在人称変化のヴァリエーション (S. 9)

◇ ここで挙げられている動詞も規則動詞として扱われるが、¹で学んだ典型的な規則動詞とは微妙な差異がある。ただし、そうなる理由については、以下のように考えればよい。

- ・教科書の a)、**arbeiten 型**に関しては、語調を整えるために **du**、**er**、**ihr** の変化形で **e** が挿入されている (***du arbeitst** や ***er arbeit** のようなかたちを避けている)。
- ・教科書の b)、**reisen 型**に関しては、規則をそのまま適用すると ***du reisst** や ***du sitzt** のようなかたちが出現するが、これは **er reist** や **er sitzt** と発音的に区別できないため、それらと同じ **du reist** や **du sitzt** を採用していると考えればよい。
- ・教科書の c)、**tun 型**は、不定詞における **-n** の語尾を典型的規則動詞の **-en** に置き換えて考えればよい。ただし、**wir** や **sie** に対応するかたちのように不定詞と同じ変化形が現れるときはそのままとなる。

教科書³ sein, haben, werden の現在人称変化 (S. 10)

◇ 英語でも、*be* 動詞は、*I am, you are, he/she/it is...* というかたちの人称変化を行う。ドイツ語でも、

- ・ *be* 動詞に相当する **sein**
 - ・ *have* に相当する **haben**
 - ・ *become* に相当する **werden** (未来形や受動態にも用いる ⇒教科書第 12 課、第 14 課)
- は不規則変化動詞である。これらはすべて、(当然ながら) 極めて頻繁に登場する動詞であり、いずれも速やかに覚える必要がある。

教科書 Übung 7 (S. 11、CD トラック 10)

1~4. ドイツ語の場合、未来形は現在形で代用することができる。これらの文についても、未来形的に解釈してもよい。 (⇒教科書 S. 48)

連絡先など

教員のメールアドレス: tokan@nifty.com 教員のウェブサイト: <http://hasegawa.la.coocan.jp/>

授業のウェブサイト (進捗表示、配付資料あり): <http://hasegawa.la.coocan.jp/lecture/>